

# 「パンツをはく？」ヤドカリに新たな発見

動物学研究科 主任上席研究員 駒井智幸

## ○研究の背景

キンチャクヤドカリ *Paguropsis typica* はヤドカリ科に属し、イギリスの博物学者 J.R. Henderson 氏により 1888 年に新属新種として発表されました。最初に見つかったのはフィリピンでした。その後、やはりイギリスの博物学者の A. Alcock 氏はインド産の標本に基づき、1899 年に *Chlaenopagurus andersoni* という新属新種のヤドカリを発表します。袋状のスナギンチャクの仲間を使い、パンツをはくようにして体を隠す（英語では「毛布をまとう」と表現されています）という奇妙な生態は Alcock 氏により初めて報告されました。ただし、Alcock 氏はその後、自分の発表した種は Henderson 氏の発表した種と同種であると考え、1905 年に *C. andersoni* を *P. typica* の下位シノニム（同物異名）としました。それから 110 年以上もの間、キンチャクヤドカリ属にはキンチャクヤドカリ 1 種のみが知られるという状況が続いてきました。

## ○研究の成果

スミソニアン研究所国立自然史博物館の Rafael Lemaitre 博士、インドネシア科学院の Dwi Listyo Rahayu 博士、および当館動物学研究科の駒井はインド・西太平洋の広大な海域から収集されたキンチャクヤドカリ類の資料を検討し、その結果を 2018 年 4 月 23 日付けで公表された分類学の学術誌 ZooKeys 752 号に掲載された論文にまとめました。キンチャクヤドカリ属の種多様性はこれまで考えられていたよりはるかに高く、Alcock 氏の発表した *C. andersoni* はキンチャクヤドカリとは別種あること、さらにキンチャクヤドカリと同様の特徴を具えた 5 新種が発見されました。ただし、2 新種についてはキンチャクヤドカリ属とは多くの特徴で異なることから、新属 *Paguropsina* が創設されました。いずれの種も 200 m 以深に出現する深海性で、各種の分布は以下のとおりですが、日本にも分布するのは現在のところ、キンチャクヤドカリと *Paguropsina inermis* の 2 種だけです。

*Paguropsis typica* Henderson, 1888 キンチャクヤドカリ 南日本（九州パラオ海嶺、南大東島沖）、南シナ海、フィリピン、インドネシア、ニューカレドニア、オーストラリア東岸、水深 136-1125 m。



図 1. スナギンチャク類の群体をはいた状態  
フィリピン産。写真撮影 Tin-Yam Chan 博士  
(国立台湾海洋大学)。



図 2. 裸の状態  
フィリピン産。写真撮影 Tin-Yam Chan 博士  
(国立台湾海洋大学)。

*Paguropsis andersoni* (Alcock, 1899) 和名なし フィリピン、インドネシア、インド、マダガスカル、  
アフリカ東岸、水深 30–594 m。



図3. インドケララ沖産の標本  
当館所蔵. 写真撮影 駒井智幸.

*Paguropsis cunfusa* Lemaitre, Rahayu & Komai, 2018 和名なし フィリピン、インドネシア、南シナ  
海、アフリカ東岸、水深 150–403 m。



図4. モザンビーク海峡産の標本.  
写真撮影 Tin-Yam Chan 博士 (国立台湾海洋大学) .

*Paguropsis gigas* Lemaitre, Rahayu & Komai, 2018 和名なし 南シナ海、水深 297–565 m。



図5. 南シナ海産のホロタイプ.  
写真撮影 Tin-Yam Chan 博士 (国立台湾海洋大学) .

*Paguropsis lacinia* Lemaitre, Rahayu & Komai, 2018 和名なし パプアニューギニア～ニューカレドニア、水深 135-788 m。



図 6. パプアニューギニア産のパラタイプ.  
写真撮影 Tin-Yam Chan 博士  
(国立台湾海洋大学) .

*Paguropsina inermis* Lemaitre, Rahayu & Komai, 2018 和名なし 小笠原諸島、南シナ海、フィリピン、インドネシア、フィジー、トンガ、ニューカレドニア、水深 101-397 m。



図 7. 小笠原諸島父島沖産の標本  
当館所蔵. 写真撮影 駒井智幸.

*Paguropsina pistillata* Lemaitre, Rahayu & Komai, 2018 和名なし フィリピン、インドネシア、ソロモン諸島、ニューカレドニア、水深 135-859 m。



図 8. フィリピン産の標本  
写真撮影 Tin-Yam Chan 博士  
(国立台湾海洋大学) .

## ○謎にみちた生態・進化

キンチャクヤドカリの仲間が共生するスナギンチャク類については種もまだ確定されていません。キンチャクヤドカリの仲間は袋状になったスナギンチャク群体の内側の縁近くをハサミ状の第4胸脚でしっかりとつかみ、サスペンダーでひっぱるような形でイソギンチャクをはいています。ヤドカリ類はゾエアと呼ばれるプランクトン幼生期を経てから成体になるので、キンチャクヤドカリの仲間も最初からイソギンチャクをはいているわけではありません。いつ、どこで、どうやってパートナーとなるスナギンチャクを見つけるのか、などいまだに分かっていません。ヤドカリ類は巻貝をはじめとしていろいろな素材を宿として利用しますが、キンチャクヤドカリ類のようにスナギンチャク類を直接はくようにして利用するという例は他のヤドカリ類では知られていません。このような特殊な生態がどのように進化したのかなど、興味は尽きません。

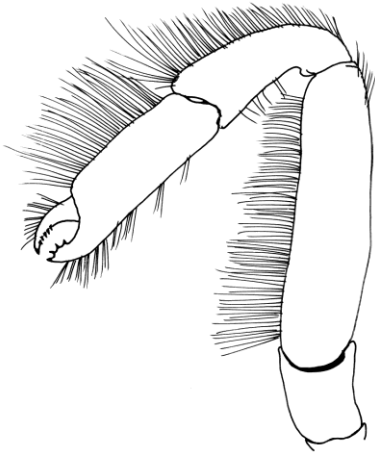


図9. キンチャクヤドカリの第4胸脚.  
ハサミ状になっている点に注目.



図10. キンチャクヤドカリの第4胸脚のハサミの拡大.  
咬合縁には鋭いトゲが並んでいます。

論文 : Lemaitre, R., D.L. Rahaty & T. Komai. 2018. A revision of “blanket-hermit crabs” of the genus *Paguroopsis* Henderson, 1888, with the description of a new genus and five new species (Crustacea, Anomura, Diogenidae). ZooKeys, 752: 17–97.